

令和6年度 陵ヶ岡小学校の教育

1. 学校教育目標

自ら探究し、つながり合い、未来を拓く陵ヶ岡の子
～探究力・人間力・自分力(3 Motto)を育む陵ヶ岡教育の創造～

2. 花山ブロック小中一貫目標

自ら未来を切り拓き、地域・社会と共に歩む子どもの育成

3. めざす子ども像

「探究力」「人間力」「自分力」
“3 Motto”で未来を自分で切り拓く子どもたち

探 究 力 ～ふかめる子～

- 主体的に学び探究し、対話を通じた協働で、深い学びを実現する。
- 言語活動を充実し、基礎学力を定着させる。
- 自分の学びと社会とのかかわりを繋ぎ、活用する。
- 数学的思考力・情報活用能力・実践的英語力を伸ばす。
- 学校図書館を活用し、読書活動を促進する。

人 間 力 ～つながる子～

- 規範意識を高くもち「主体的」に行動する。
- 友だちとの関わりの中で、互いの「生き方」の違いを認め合い、協働し「自立」する。
- 好ましい人間関係を形成するために、他人の立場を「想像」し、感情を分かち合う能力を身に付ける。
- 「いじめ」に気づき、許さない心をもつ。
- 地域と自分とのつながりを見つけ、地域の一員として活動する。

自 分 力 ～かがやく子～

- 自分で決定する力を持ち、自分の未来を主体的に切り拓く。
- 自分の役割見つけて、みんなのために働くたくましい心をもつ。
- 自ら判断して、学校や地域での危険を予測し、命を守る適切な行動ができる。
- 基本的な生活習慣を身に付け、健康に過ごすために進んで運動する。
- 心身の健やかな成長を阻害する事柄について正しい知識を持ち、自分で判断して毅然とした態度で身を守る。

「育成を目指す資質・能力」の具体化

- 探究力…自ら課題を見つけ探究する力、「自分の学び」と「他者や地域、教科の知識・技能を「つなぎ」創造する力、すべてを支える言語力
- 人間力…「ゆるやかな協働」の中で助け合いながら「自立」する力、相手の立場を「想像」し感情を分かち合う能力、合意形成する力
- 自分力…「自己決定」する力、自分の将来を拓く力（キャリア）、友だちも自分も大切にする力（自尊感情）、自分の活動を自分で理解し律する力（メタ認知・自己有用感・自己指導能力）

4. めざす教職員像

一人一人が「主体的」学校運営にかかわり、
進んで学校改革、授業改善に取り組む教職員

～陵ヶ岡のチーム力を高めるために～

- 信頼できる大人としてのモデルを子どもたちに示す。
- 「主体的」に学校運営に取り組み、自ら発信しマネジメントする。
- 常に人権感覚を磨き、一人一人を徹底的に大切にし、子どもの自尊感情を高める取組を実践する。
- 3 Motto を授業改善の柱として、深い学びを目指した取組を進める。
- 「中学校ブロック連携教育」を目指し、9年間の「学力」形成のために協働する。
- 保護者や地域と協働・連携し、信頼される教育活動を進める。
- 「自己決定力」を養い、日常的に危険を予測し、子どもの安全と安心を確保できる行動をとる。
- すべての取組において指導の徹底と継続を行う。

5. めざす学校像

子どもたちが互いの違いを認め合い、自らの行動を自分で判断し、
自分の未来を自分で切り拓く確かな「学力」を追究する学校

- 「子どもが『わくわく』する学校」
 - ・主体的に学び探究する喜びを感じる「授業」がある。
 - ・協働を通して学び合い、高め合う「学びの集団」がある。
 - ・子どもの特性に応じた支援の充実をはかる。
 - ・一人一人が力を発揮し、認められる場がある。(自己有用感・自尊感情)
- 「保護者が通わせたいと思う学校」
 - ・保護者の思いや願いを常に汲み取り、実践に活かす。
 - ・子どもの命と人権を守り切り、一人一人を徹底的に大切にしている。
 - ・確かな「学力」の向上と家庭と連携した学習の取組がある。
- 「教職員が生き生きと働く学校」
 - ・教職員の多様性を認め合い、お互いに理解しようとする同僚性をもつ。
 - ・全ての教職員がリーダーとなり、それぞれの持ち場で十分に力を発揮する。
 - ・全ての教職員が「同じ目線」をもち、「同じ路線」で子どもたちを導く。
 - ・常に情熱をもち、協働して教育活動を推進する。
- 「地域が応援したいと思う学校」
 - ・「地域の子どもは地域で育つ」：子どもと地域の「つながり」を常に意識する。
 - ・規範意識を高くもち、あいさつや感謝の気持ちを伝える。
 - ・地域を思い、地域の未来を考えて子どもたちの取組を地域に発信する。
- 「中学校ブロックでつながり合い共に学んでいく学校」(コネクトプロジェクト)
 - ・「小小連携」「小中連携」を推進し、教職員も子どもたちも地域の一員としてつながりあう。(3校一体型「学校運営協議会」)
 - ・教職員の交流、子どもたちの交流活動を創造し、「学力」向上に向けて協働して実践を進めていく。

今年度の重点…子どもたちがより良い学びを自ら創る力の育成

① 確かな学力を身に付けるための授業改善

- ・「育成を目指す資質・能力（探究力・人間力・自分力）」を明らかにした授業改善の実践、と日々の授業の交流（OJT）。（資質能力育成チーム）
- ・各教科で培った力を生活科、総合的な学習の時間に具体的に反映させた授業改善を図る。
- ・縦の児童のつながり「たてわり活動」と共に、横の児童のつながり「学年経営」の在り方を具体的に全教室が統一して実践する。（人間力形成チーム）
- ・研究指定を授業改善に生かす
- ・「幼保小の連携・接続（架け橋プログラム）実践研究事業」（２年次）
～架け橋期（５歳児から小学校１年生）の教育の質の向上を図る取組の実践研究～
- ・「生徒指導提要（自己存在感の感受・共感的人間関係の育成・自己決定力の場の提供・安全安心な風土の醸成）から児童の自己指導能力を高める」ために本校独自のチェックリストを活用する。
- ・言語活動に裏打ちされたコミュニケーション能力の育成。自分の考えをパネルディスカッション等で「やりとり」のできる能力の育成。
- ・「ブロック連携教育」の創造。「幼保小連携」「小小連携」「小中連携」を中心として、児童の「学力」を見すえた具体的な連携方法の創造。
- ・「地域の中で育つ子どもたち」学校行事と地域行事の連携、教育課程の中に地域の力を生かす取組の推進。

② 全員参加の組織改革、すべての教職員が「笑顔」で働くために、全員の発想とアイデアで創造する陵ヶ岡の教育

- ・すべての教職員がそれぞれのキャリアステージに応じて、「主体的」に学校運営や授業改善にかかわれる組織体制。低・中・高学年での教科担任制の充実。
- ・教育活動創造部門として「資質・能力育成チーム」「人間力形成チーム」の２チームで大きく構成した研究体制の構築。（「資質・能力育成」の授業改善・「人間力形成」の学年経営）
- ・各行事プロジェクト体制を組んで、それぞれの取組の在り方や具体的な方法についてメンバーで考えを共有。
- ・中堅、若手教員の外部の公開授業・研修会等への参加を推奨し、伝達研修などで本校の教育実践に還元、新しい実践への取組の充実。

